# 5. 管理運営の施策

## 5.1 基本方針 1 の施策展開

	【基本方針】1. 白山の恵みを守る
管理運営の施策	①生態系と種の保存の推進

#### 【現 状】

白山ユネスコエコパークは、動植物の重要かつ貴重な生息・生育地域であり、 ツキノワグマやイヌワシ、ニホンカモシカのような希少動物や環境省及び4県のレッドリストに登録されている種を含む多数の高山植物が存在しています。

そのため、地域住民や各種団体等による希少動植物の生息・生育調査や保護・保全のための取り組みが行われています。

#### 【方向性】

引き続き、動植物の生息・生育調査を実施し、自然環境の維持、野生生物の保護 等を図ります。

また、地域住民への希少種の保護や生態系の保全に係る啓発活動等、地域住民や 各種団体との協働による適切な保全・管理を推進します。

- ・動植物の生息・生育調査の実施
- ・自然保護や生物多様性保全活動の推進
- ・各種団体が催行する環境イベントの情報発信・協力等



「山中峠のミズバショウ群落」保全活動(荘川エリア)

# ②生態的リスクへの対応強化

## 【現 状】

近年登山者の増加等により、人為によって意図的・非意図的に持ち込まれることで、その自然分布域を超えて高標高域等に侵入している低地性の植物や海外産の植物(以下、外来植物という。)が、白山の高標高域にも侵入しており、外来植物の除去活動や、種子除去マット・ブラシを登山口等へ設置する等の対策が行われています。

また、エリア内の川や湖においても、外来魚が人為的に移入され、在来魚を駆逐 するといった事態が懸念されています。

さらに、全国的に問題となっているニホンジカの採食について、白山ユネスコエコパークのエリア内でも天然記念物が被害を受ける等の影響が確認されている他、地球温暖化による動植物への影響も懸念されています。

## 【方向性】

引き続き、関係機関や関係団体等と連携した外来植物及び外来魚対策を実施します。

また、ニホンジカ等の生息状況や森林植生、農林水産物への被害に関する調査を 実施し、関係機関と情報の共有・交換を行い、エリア全域で連携した対策を図ります。

さらに、地球温暖化の影響による白山の雪渓調査等を推進し、気候変動へのリスクに備えます。

- 外来種対策の推進及び普及啓発
- ・エリア全域での獣害対策の推進と情報共有及び普及啓発
- 自然保護や生物多様性保全活動の推進
- ・気候変動リスクへの対応



外来種除去活動(白鳥エリア)

# ③開発等への対応と二次的自然環境の保全の推進

### 【現 状】

国立・国定公園や県立自然公園、保護林等で構成される核心地域及び緩衝地域では、高山生態系や風致景観への影響が懸念される各種行為が関係法令により規制されています。

一方、移行地域では地域住民によって利用及び維持管理されてきた二次的自然環境(植林地や二次林、二次草原、水田、ため池等)において、利用機会の減少や担い手不足等の問題から、管理放棄や荒廃、獣害が見られる場所があり、生物多様性の低下につながることが懸念されています。

### 【方向性】

国立・国定公園や県立自然公園、保護林等で構成される核心地域及び緩衝地域では、引き続き関係法令に基づいた適切な対応を進めます。

また、移行地域の植林地や二次林、二次草原等においては、現状把握を進めるとともに、その影響についての周知を図り、関係機関や関係団体、地域住民等と連携し、担い手不足等の課題への対策を検討します。

- ・関係法令の順守
- ・二次的自然環境に関する意見交換会・検討会等の実施



白山白川郷ホワイトロード(白川郷エリア)

# 4 環境保全意識の向上

### 【現 状】

自山はゴミのない山と言われている一方で、登山者の増加や社会の変化に伴い、植生の踏み荒らしやゴミの増加等の問題が懸念されています。ガイドやボランティア、指導員等の活動を通して、登山者に対する自然保護の意識向上を図るとともに、高山植物の盗採掘、廃棄物の不法投棄等の未然防止のため、地域の関係者と連携したパトロールを行っています。

また、各エリアでは、それぞれの特色を生かした自然観察会や自然体験プログラム、学習会等を開催しており、地域住民の環境保全に関する知識を深める取り組みがなされています。

### 【方向性】

白山の恵みを享受しながら生活している地域住民の生活環境や多様な人々の利用をふまえ、ルールやマナーの指導、意識啓発を進めます。

また、地域住民や次世代の担い手である子どもたちに向けて、環境に対する保全 意識の醸成を図るとともに、白山の自然がもたらす恵みについて理解し、地域が主 体的に取り組む活動を推進します。

- ・自然観察会、自然体験プログラム、学習会等の充実
- ・地域が主体となった環境保全活動の推進
- ルールやマナーの周知や徹底



ブナ林での自然観察会(勝山エリア)

# 5.2 基本方針 2 の施策展開

	【基本方針】2. 白山の恵みを知る
管理運営の施策	⑤学術的調査研究の推進

#### 【現 状】

各エリアでは、自然環境や地域の歴史・文化等に関する調査研究が多様な研究機関によって行われています。例えば、石川県白山自然保護センターは、白山ユネスコエコパークエリア内で長期にわたって調査研究等を行っている機関で、生態学、地球科学、人文科学の各分野で調査を実施し、毎年研究報告書を作成しているほか、福井県自然保護センターや白山文化博物館等によって様々な調査研究が実施され、その成果が蓄積されています。

今後は、それらのデータを集約し、データベースとして構築することが求められています。

#### 【方向性】

引き続き、自然環境や地域の歴史・文化等に関する調査研究を実施し、それらの情報のデータベース化や生態系サービスの評価を行うことにより、地域課題の解決や環境教育、エコツーリズム等の実施に役立てます。

また、白山ユネスコエコパークの総合政策的な研究を行うため、研究者に対する研究支援や、大学や研究機関との連携を推進します。

- ・各分野における調査研究の実施
- ・調査研究結果のデータベース化の推進
- ・大学や研究機関との連携の推進



外来植物の除去効果モニタリング調査

# ⑥モニタリングの推進

### 【現 状】

各エリアでは、生物多様性を適確に保全していくために、自然環境や生活環境、 社会状況等の様々な分野のモニタリングが実施されています。

環境省や林野庁では、保全対象の自然環境に関する基礎調査や森林調査、動物調査といったモニタリングが継続して行われており、4 県においてもレッドデータブック作成のための動植物調査やその他特定課題に関する調査等が行われています。また、地域住民・団体においても希少な動植物の保護を目的としたモニタリングが実施されていますが、ノウハウが不足している等の課題も抱えています。

## 【方向性】

引き続き、白山の恵みを守るために、関係機関と連携したモニタリング調査を実施します。また、地域住民と連携したモニタリングを推進します。

これらの調査結果の情報共有を図り、総合的に把握し、種の保存や生態的リスク等の広域的な課題の対策に役立てるとともに、地域住民の意識向上につなげます。

- 各種モニタリング調査の継続
- ・モニタリング調査結果の活用推進
- ・地域住民と連携したモニタリングの推進



ニホンジカの生息状況のモニタリング

# ⑦ESDの推進

## 【現 状】

各エリアでは、ESDに資する様々な教育活動が行われており、ユネスコスクールと連携した取り組みも行われています。

小中学校や大学、民間団体等が連携して、白山ユネスコエコパークをフィールドとした自然体験学習や郷土学習を実施しており、白山の自然や文化に触れる機会を 創出することで、生態系や生物多様性に関する意識の醸成や地域課題に対する関心 の向上が図られています。

### 【方向性】

引き続き、様々な教育機関や研究機関、関連施設と連携したESDを進めます。 また、SDGsの動向をふまえて、自然と人間社会の共生を目指す環境教育や文 化継承活動の充実を図ります。

さらに、学校での環境保全意識を育む教育の推進だけでなく、地域住民(大人)も対象とした学習環境の整備等、地域に根差した体験型のESDを実践することで、地域が抱える課題を見つけ、自らの課題として捉えて解決できる人材の育成を推進し、持続可能な地域の発展につなげます。

- 自然体験学習や地域学習等の推進
- 課題解決型の能力育成
- ・大学等のフィールド演習の受入れや支援
- ・教育機関、研究機関、関連施設等との連携の推進



大学と民間団体による地域学習プログラム(白峰エリア)

# 5.3 基本方針 3 の施策展開

【基本方針】3. 白山の恵みを活かす
--------------------

管理運営の施策

8伝統文化の保全と伝承の推進

#### 【現 状】

世界文化遺産に登録されている「白川郷・五箇山の合掌造り集落」をはじめ、各エリアでは、白山信仰や伝統工芸、伝統芸能、食文化、生活様式等の独自の伝統文化が受け継がれてきました。

行政を中心に、伝統文化の現状を把握するとともに、地域住民や保存団体等が保全・伝承活動に取り組んでいますが、少子高齢化や人口流出による担い手不足や後継者不足、維持管理費用の増加等により存続が危惧されているものもあります。

#### 【方向性】

地域の伝統文化は次世代に継承していくべき共有財産であり、地域への愛着や参加意識を育てる貴重な資源でもあります。それらを支える地域住民のつながりや子どもたちの価値観の醸成を育み、伝統文化の保全と伝承に向けた取り組みを推進します。

また、白山ユネスコエコパークでの交流や関連産業との連携を図り、持続可能な 地域の発展につなげます。

- 伝統文化の保全事業の推進
- ・各団体の活動内容の情報発信・共有
- ・後継者育成の推進



白山文化博物館(白鳥エリア)

# ⑨地域住民の意識向上と人材育成の充実

## 【現 状】

各エリアでは、環境教育や伝統文化等をテーマに掲げた住民参加による取り組みが行われており、豊かな自然と生態系の保全、自然資源を活かした持続可能な地域の発展を目指しています。

しかしながら、白山ユネスコエコパークの登録から 30 余年の歳月が経過しているものの、地域住民の認知度は低い状況にあるといえます。また、地域を支える人口も減少傾向にあります。

### 【方向性】

地域住民に対して白山ユネスコエコパークの普及・啓発を図り、ユネスコエコパークの理念が地域に浸透する取り組みを進めます。そして、先進的な活動を行っている地区の活動状況を広く周知することで、白山ユネスコエコパークの地域住民の意識向上に努めます。

また、地域の課題に主体的に取り組み、白山の恵みを享受した持続可能な暮らしや自然環境及び文化の保全・継承・発展に寄与する人材や、次代を担う若年層の育成、白山の恵みを伝えるガイドの育成に努めます。

- ・白山ユネスコエコパークの普及啓発及び学習会等の推進
- ・地域の課題に主体的に取り組む人材の育成
- ・白山の恵みを伝えるガイドの育成





白山開山 1300 年記念「山の日シンポジウム in 郡上」

# ⑩地域資源の活用による経済活動の持続

### 【現 状】

各エリアでは、山や川、雪、温泉、農業といった白山の自然環境を活かした体験型イベントやエコツーリズム、アウトドアスポーツ等が行われています。

また、世界文化遺産にも登録されている白川郷・五箇山の合掌造り集落等の伝統 的な建造物群や各エリアに伝わる伝統芸能は、地域の伝統を伝えるだけでなく、重 要な観光資源にもなっています。

さらに、山菜やキノコ類、堅果類(トチノミ等)、薬草(オウレン等)、高原野菜、川魚、獣肉といった地域特有の自然資源を利用した農林水産物や加工品等の生産が行われており、各エリアの特徴を活かした様々な事業が展開されています。例えば、とち餅や堅豆腐、そば等の特産品の一部は地域ブランドとして確立されているほか、石川県の白山麓、富山県の五箇山、岐阜県の白川郷では、地元商工会が中心となり地域の恵みをふんだんに用いた白山百膳を提供する等、地域資源を活用した活性化を推進しています。

## 【方向性】

4 県 7 市村で構成される広域連携体としての強みを活かし、地元の観光や農林水産業等に関わる団体と連携を図りながら、地域資源の把握と磨き上げを進め、地域特有の自然と文化を活かした産業や特産品のブランド化等を推進していくとともに、近年増加する外国人観光客に配慮したインバウンド事業の展開を目指します。また、地域で培われてきた技術や資源を活かした持続可能な雇用を創出し、特に若年層の定住化を図ることで、地域の活性化につなげます。

さらに、白山の豊かな自然と恵みを後世に引き継ぐため、自然環境や天然資源に 配慮した生産と消費を図り、地域資源の持続可能な活用に努めるとともに、「白山 きりまんじゃろプロジェクト\*\*1」のような環境保全と国際交流に貢献できる事業の 拡充を目指します。

#### 【取組】

- ・地域資源の磨き上げとさらなる活用
- ・特産品のブランド化の推進
- ・インバウンド事業の推進
- ・ 若年層の定住化の推進
- ・地産地消事業の推進
- ・自然環境や天然資源に配慮した 経済活動の推進



白山の郷土食「報恩講料理」

※11 白山きりまんじゃろプロジェクト: コーヒーを飲むだけで気軽にできる環境保全プロジェクト。 コーヒー1 杯の代金から、白山とキリマンジャロの環境保全活動にそれぞれ 5 円(ご縁)が活用 される。

# ⑪交流インフラの充実

### 【現 状】

各エリアへの来訪者は、マイカーでの利用が殆どであるため、駐車場の不足や国道等の幹線道路や集落内の道路において交通渋滞が発生しており、観光客への影響のほか、緊急車両の通行障害等により地域住民の生活にも大きな影響を与えています。

一方、白山ユネスコエコパークにはユネスコエコパークであることを周知するためのサインが少ないために、エリアの範囲や区分が明確でない等の課題があります。

## 【方向性】

効率的な交通体系の充実を目指し、関係機関及び交通事業者と連携した交通インフラの整備に向けた取り組みを推進します。

また、近年増加するインバウンドをはじめとする交流人口に対して適切な対応を 進めるとともに、エリアの可視化を図り、白山ユネスコエコパークの周知に努めま す。

- ・公共交通機関の利用促進
- ・交通環境の向上と情報発信
- ・多言語化に対応した情報発信の推進
- ・白山ユネスコエコパークのサイン整備の推進



道の駅「桜の郷荘川」に設置されているサイン(荘川エリア)

# ①危機管理対策の推進

### 【現 状】

活火山である白山の火山防災については、国や石川県、岐阜県、福井県の関係機関等で構成する白山火山防災協議会において、2015年6月に「白山火山防災計画」が策定されました。これをふまえ、平常時から実践的な避難訓練等の取り組みが進められています。

また、登山届の提出義務化の広報、安全登山を呼びかけるチラシの配布、国立公園内の登山道等の整備や緊急速報メール配信サービス等の取り組みが進められており、利用者の安全性の確保に努めています。

#### 【方向性】

引き続き、白山が活火山であることを周知するとともに、「白山火山防災計画」の普及・啓発を図ります。

また、白山の災害リスクを正しく理解して危機管理能力を高めるため、避難計画に基づく訓練を繰り返し実施し、地域住民の防災意識の向上や防災組織のリーダーの育成に努めます。

さらに、地域住民だけでなく、来訪者に対しても様々な災害情報を迅速かつ正確に伝えるため、携帯電話不感地帯解消の働きかけや防災行政無線、メール配信サービス、SNS等のソーシャルメディアの活用を推進します。

- ・登山届の提出義務化に対応した取り組みの強化
- ・防災に関する情報発信
- ・登山道等の整備
- ・ESDの観点を取り入れた防災訓練や防災研修の実施
- ・防災意識の向上及び防災組織のリーダーの育成



白山火山防災マップ

# 5.4 重点方針の施策展開

# 【重点方針】環白山地域のプラットフォームの構築

管理運営の施策

①環白山地域の連携

### 【現 状】

環白山地域は、2016年の拡張登録や白山開山 1300年を契機に、地域の連携は促進されているものの、構成エリアが4県7市村にまたがるため、地域間の意識や取り組み内容に違いがあり、環白山地域全体での連携体制の構築が課題となっています。

例えば、外来種除去等の活動は各エリアで行われていますが、白山ユネスコエコパークの活動として関連づけされておらず、各エリアでの活動のみに留まっています。

### 【方向性】

協議会では、各エリアでの活動内容等の情報を収集し、データベース化を行い、 環白山地域での情報共有を進めます。さらに、ウェブサイトやパンフレット等によ る情報発信の強化、ロゴマークの統一的な運用による啓発活動を推進します。

また、白山ユネスコエコパークのエリア内にある世界文化遺産や世界農業遺産、日本ジオパーク等の多様な認証制度との連携や、地域の若者による部会の実施により、エリアを超えたネットワークの形成による包括的な取り組みを推進します。

- ・エリア内での情報共有及びデータベース化の推進
- ・ウェブサイト・パンフレット等による情報発信の強化
- 各種イベントでのロゴマークの活用
- ・多様な認証制度との連携
- ・若者世代のネットワークの形成
- ・白山ユネスコエコパークのサポーター登録制度の構築



住民団体との意見交換会

# 【現 状】

ユネスコエコパークは国際認証のプログラムであり、国内外のユネスコエコパー クとネットワークを通じて結ばれています。

これまで、白山ユネスコエコパーク協議会ではユネスコ活動を通じた交流や持続 可能な開発目標(SDGs)の達成に貢献することを目的に、アジア地域やユーラシ ア地域での共同事業(文部科学省補助事業)の実施や事業協力のほか、ユネスコエコ パーク関係者の招へい、ユネスコのMABユースフォーラムへの派遣、JICAへ の協力等の様々なネットワーク活動を行ってきました。

今後、国内外のユネスコエコパークや関係機関とのさらなる連携や学び合い、相 万交流が期待されます。

#### 【方向性】

日本ユネスコエコパークネットワーク(JBRN)とともに、国内外の登録地域等 との連携により、相互交流による学び合いを継続します。また、国内外に対してユ ネスコエコパークの魅力を発信するとともに、時代を担う人材の育成に努めます。 さらに、国際社会が抱える問題に対して国際交流活動を継続して実施することで、 世界のユネスコエコパークネットワークの一員としての役割を果たします。

- ・多様なユネスコエコパーク関係者とのネットワークの拡充
- ・他のユネスコエコパークと連携した学習会等の開催



**©UNU-IAS OUK** 

国外のユネスコエコパーク関係者の招へい